

九州・沖縄母子保健研究ベースラインデータの結果 社会経済的要因と妊娠中うつ症状有症率との関連

背景：これまでの職業、収入、教育歴と妊娠中うつとの関連に関する疫学研究の結果は一致しておりません。アジア人を対象とした疫学研究はなく、職種と妊娠中うつとの関連を調べた疫学研究も未だありません。

方法：九州・沖縄母子保健研究のベースライン調査に参加した 1741 名の妊婦さんを対象としました。Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D) の 16 点以上をうつ症状有りと定義しました。ベースライン調査実施年及びその前年の両年で職に就いていなかった場合、無職と定義しました。年齢、居住地域、家族構成、うつ既往、うつ家族歴、喫煙、受動喫煙、職業、家計の年収、教育歴を交絡因子として補正しました。

結果：妊娠中うつ症状の有症率は 19.3%でした。無職に比較し、職業有りでは有意に妊娠中うつ症状有症率低下と関連を認めました。職業有りをフルタイム勤務とパートタイム勤務に分けて解析を行ったところ、フルタイム、パートタイムとも有意に妊娠中うつ症状有症率低下と関連していました。職種別の解析では、専門的・技術的職業及び事務従事者で有意に妊娠中うつ症状の有症率が低下していました。販売、サービス職業、生産工程、その他の職業従事者では関連がありませんでした。家計の年収と教育歴とも妊娠中うつ症状と関連を認めませんでした。

結論：勤務時間に関わらず職に就きことと専門的・技術的職業や事務従事者では妊娠中うつ症状の有症率低下と関連しているのかもしれない。

出典： Miyake Y, Tanaka K, Arakawa M. Employment, income, and education and prevalence of depressive symptoms during pregnancy: The Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. BMC Psychiatry. 2012; 12: 117.

職業変数	オッズ比 (95% CI)
職業の有無	
無	1.00
有	0.65 (0.50–0.86)
職業状況	
無職	1.00
パートタイム	0.66 (0.46–0.95)
フルタイム	0.66 (0.48–0.90)
職種	
無職	1.00
専門的、技術的	0.67 (0.47–0.96)
事務	0.62 (0.43–0.90)
販売	0.69 (0.37–1.22)
サービス	0.62 (0.36–1.04)
生産工程	0.88 (0.41–1.75)
その他	0.46 (0.13–1.25)